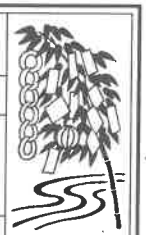

七月（大）文月（ふみづき）

張宿

（七月七日小暑の節より
月命己未三碧木星の月
暗剣殺東の方）

旧五月大
旧六月小

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	廿宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	土	かのえ さる	六白	社会を明るくする運動、全国安全週間、国民安全の日、富士山開き、銀行の日、旧五月大	十四	赤口	みつ	氐	大みゃう	4.29 19.01	16.56 1.48	1.51 16.32	9.13 21.35
2日	日	かのと とり	七赤	**半夏生**一一時三六分、博多祇園山笠（1日～15日）	十五	先勝	たいら	房	神よし	4.29 19.01	18.08 2.34	2.44 17.18	9.59 22.27
3日	月	みづのえいぬ	八白	○望二〇時三九分	十六	友引	さだん	心		4.29 19.01	19.14 3.31	3.35 18.02	10.47 23.16
4日	火	みづのと ゐ	九紫	米国独立記念日、八せん終り	十七	先負	とる	尾	ぢう日	4.30 19.01	20.12 4.39	4.23 18.45	11.36 —
5日	水	きのえ ね	九紫	栄西禅師忌、九星陰遁始め、甲子	十八	佛滅	やぶる	箕	●	4.30 19.01	21.00 5.54	5.09 19.27	0.03 12.24
6日	木	きのと うし	八白	東京入谷朝顔市（8日迄）	十九	大安	あやぶ	斗	神よし	4.31 19.00	21.39 7.12	5.56 20.07	0.47 13.10
7日	金	ひのえ とら	七赤	**小暑**一七時三一分、**七夕**、成田不動尊祇園会、奈良吉野蛙とび	廿	赤口	あやぶ	牛	天おん	4.31 19.00	22.12 8.27	6.45 20.44	1.32 13.53
8日	土	ひのと う	六白	不成就日	廿一	先勝	なる	女	神よし	4.32 19.00	22.42 9.39	7.39 21.19	2.17 14.34
9日	日	つちのえたつ	五黄	東京浅草観音ほおずき市、鷗外忌	廿二	友引	おさん	虛	天おん	4.33 19.00	23.09 10.48	8.41 21.52	3.08 15.14
10日	月	つちのと み	四緑	◑**下弦**一〇時四八分、東京浅草観音四万六千日、己巳	廿三	先負	ひらく	危	くゑ日	4.33 18.59	23.36 11.55	9.54 22.25	4.08 15.56
11日	火	かのえ うま	三碧	初伏、大つち、三隣亡、一粒万倍日	廿四	佛滅	とづ	室	●	4.34 18.59	— 13.00	11.22 23.02	5.21 16.49
12日	水	かのとひつじ	二黒	草市、福島伊佐須美田植祭、大阪生国魂神社夏祭	廿五	大安	たつ	壁	大みゃう	4.34 18.59	0.05 14.06	13.19 23.47	6.35 18.05
13日	木	みづのえさる	一白	ぼん迎え火、東京靖国神社みたま祭	廿六	赤口	のぞく	奎	神よし	4.35 18.58	0.36 15.11	— 15.15	7.39 19.32
14日	金	みづのととり	九紫	佐原の大祭・小倉祇園太鼓（16日迄）、熊野那智大社扇祭、一粒万倍日	廿七	先勝	みつ	婁	神よし	4.36 18.58	1.12 16.14	0.49 16.13	8.33 20.47

月の初めにはまだ梅雨期が残っていることもあるが、本格的な夏型の天候、気候になろう。ただし最近は不順なことが多く、冷害や集中豪雨に見舞われることもある。

【冠】七日は「七夕」（たなばた）五節句の一つ「棚機」の日である。織姫の名にちなんで、昔は女子の裁縫の上達を願ったものであるが、最近では技芸はもとより、書道、音楽、学習全般などの願い事まで、祈るようになった。色紙や短冊などに願いを書いたり、紙の星形をつるして庭に飾る。近ごろでは町ぐるみ、都市ぐるみのお祭り行事になっているところもある。とくに仙台や平塚の「七夕まつり」は全国的に有名である。

【葬】死者を送って最初のお盆を特に「新盆」といい、戸外に葉つきの青竹を四隅に立て、上のほうをわら縄で結び、盆花（桔梗の別称）などをかけ、白張りの提灯

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	廿宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
15日	土	きのえ いぬ	八白	**ぼん**、山形出羽三山花祭、勤労青少年の日	廿八	友引	たいら	胃	月とく	4.36 18.57	1.54 17.14	2.02 16.50	9.21 21.47
16日	日	きのと ゐ	七赤	ぼん送り火、やぶ入り、賽日、えんま詣り、国土交通デー、京都松尾大社御田祭、不成就日	廿九	先負	さだん	昴	ぢう日	4.37 18.57	2.42 18.09	3.04 17.21	10.06 22.35
17日	月	ひのえ ね	六白	●**海の日**、京都八坂神社祇園祭、塩竈みなと祭、茅ヶ崎寒川神社浜降祭	卅	佛滅	とる	畢	きこ	4.37 18.57	3.36 18.57	3.51 17.50	10.48 23.14
18日	火	ひのと うし	五黄	●**朔**三時三二分　旧六月小	朔	赤口	やぶる	觜	十し	4.38 18.56	4.33 19.37	4.30 18.17	11.27 23.48
19日	水	つちのえとら	四緑	小つち	二	先勝	あやぶ	参	母倉	4.39 18.55	5.33 20.11	5.05 18.43	— 12.03
20日	木	つちのと う	三碧	**土用**七時二六分、山口祇園祭（27日迄）	三	友引	なる	井	百事よし	4.40 18.55	6.32 20.41	6.12 19.35	0.19 12.37
21日	金	かのえ たつ	二黒	中伏	四	先負	おさん	鬼	天おん	4.40 18.54	7.31 21.07	7.27 20.28	1.19 13.36
22日	土	かのと み	一白	敦賀気比神宮総参祭、熊谷うちわ祭	五	佛滅	ひらく	柳	天おん	4.41 18.54	8.28 21.31	8.14 20.57	1.51 14.05
23日	日	みづのえうま	九紫	**大暑**一〇時五〇分、宇和島和霊祭、三隣亡、一粒万倍日、不成就日	六	大安	とづ	星	●	4.42 18.53	9.25 21.53	9.22 21.41	2.27 14.34
24日	月	みづのとひつじ	八白	地蔵ぼん、河童忌、大田原大田山地蔵尊夏大祭	七	赤口	たつ	張	天おん	4.42 18.52	10.22 22.16	10.25 22.03	3.11 15.07
25日	火	きのえ さる	七赤	大阪天満天神祭、徳島天神祭、十方ぐれ入り	八	先勝	のぞく	翼	神よし	4.43 18.52	11.20 22.41	12.21 23.09	4.09 15.51
26日	水	きのと とり	六白	◐**上弦**七時〇七分、一粒万倍日	九	友引	みつ	軫	神よし	4.44 18.51	12.21 23.09	10.25 22.03	5.29 17.07
27日	木	ひのえ いぬ	五黄	神奈川大山阿夫利神社夏季大祭	十	先負	たいら	角	五む日	4.45 18.50	13.26 23.41	12.07 22.46	6.48 18.52
28日	金	ひのと ゐ	四緑	宇佐神宮夏越大祭（30日迄）	十一	佛滅	さだん	亢	大みゃう	4.45 18.49	14.34 —	14.33 23.44	7.54 20.19
29日	土	つちのえ ね	三碧	和歌山粉河祭（30日迄）、相馬野馬追大祭（31日迄）	十二	大安	とる	氐	ぶく日	4.46 18.49	15.45 0.22	— 15.49	8.53 21.28
30日	日	つちのとうし	二黒	土用の丑、大阪住吉祭（8月1日迄）	十三	赤口	やぶる	房	十し	4.47 18.48	16.53 1.12	1.05 16.35	9.49 22.24
31日	月	かのえ とら	一白	堺大魚夜市、京都愛宕千日詣り、芦ノ湖湖水祭、不成就日	十四	先勝	あやぶ	心	母倉	4.48 18.47	17.56 2.14	2.27 17.14	9.49 22.24

をつるす本格的な行事を行うところもある。お盆は、盂蘭盆の略で昔から家単位の大きな行事になっている。地方により多少祀り方は違うが、精霊棚を作りお位牌を安置し、野菜、果物、ソーメン、団子などを供えるのが普通である。仏壇に簀薦（すごも）を敷いて代用することもあり、きゅうりやなすで、牛、馬の形を作って供えるところもある。

十三日の夕刻、迎え火といって麻幹（おがら）をたいて仏を迎え、十五日に僧侶に読経してもらい、十六日に送り火をたいて冥界（めいかい）に送る。お盆の供え物は川や海に流すのが普通で、小さな舟を作り、それに灯籠を載せて流す風習も各地に残っている。

【祭】中元の習慣は中国に発する。正月十五日を上元、七月十五日を中元、十月十五日を下元、合わせて三元とし、金品をささげて贖罪（しょくざい）をする日といい伝えられており、これがわが国で形が変わり、縁故者や目上、恩人に贈り物をし、感謝の心を表すものとなったのである。